

ゆく年くる年・・・さらば平成、そして新時代へ

校長 狩野博臣

2019年（平成31年）がスタートしました。口加高校のHPをご覧の皆様、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、「平成〇〇年」と記せるのもあと3か月です。私は平成元年4月から教職の道を歩み始めましたので、私の教員人生はまさに平成の時代と共にありました。昭和の終わりから平成にかけて、当時のバブル景気は就職先を決めなければならない私どもにとっても追い風となり、学生は企業から引く手あまたで超売り手市場でした。そのような中、「教員の安月給では働けるか」など言いながら、教職を選ばず大手企業に就職していった教育学部の同級生たちも多くいます。給与面など当時の企業とは格段の差があった教員にはなり手が少なかったのでしょうか、時代に助けられて教員になれたことは幸運でした。あの頃、耳にたこができるほど聞かされたコマーシャルソングがあります。「24時間戦えますか。ジャパニーズビジネスマン」という某栄養ドリンクのコマーシャルです。あの頃はモーレツ社員とか企業戦士が日本を闊歩していた時代でした。それがどうでしょう、今や働き方改革の時代です。2番の歌詞には「はるか世界で戦えますか」とあり、当時、まだ世界は遥か遠くにあるものでした。それがどうでしょう。今やグローバル化の時代です。人もモノも情報も24時間、国境を越えていつでもつながっています。あれから30年、まさに隔世の感があります。

「つながる100億の脳 常識通じぬ未来、「人類」問い直す」。これは、元日のある新聞の一面見出しです。2020年代には高度な自動運転や空飛ぶタクシーの実用化、2030年頃にはチップを人体に埋め込み、キャッシュレスでの決済、2040年頃には人の分身として遠隔ロボットが仕事を遂行、2050年頃には宇宙に行けるエレベーターの開発、そしてAIが人間の知性を超えるとも予測されています。技術革新が私たちに利便性や豊かさをもたらした平成の時代。これに対し、これからの30年は技術革新により人間の生き方や社会の仕組みが変わる時代。技術の進展に応じて人間の定義が変わると言われ、時代の転換点は人類の転換期の始まりなのでしょうか。平成から新しい時代へ。私たちは歴史の転換点に立っています。それは「人間とは何か」、「自分はどう生きるべきか」また「幸福とは何か」など、根源的な問いの答えを自ら探す時代への入り口と言ってもいいのかもしれない。

ある保険会社が次の元号を予想するアンケートを実施しました。1位は「平和」、2位「和ら」、3位「安久」。4位以下は「未来」「自由」「希望」などだったそうです。この結果には、いつまでも平和で仲良く、安らかで、希望に満ち、そして自由に伸び伸びと生きたいという、私たち人間の切実な願いが表れているように思います。

元号がかわろうとも、笑顔溢れる1年でありますよう、心から祈念申し上げます。